



## 13歳からのアート思考 ～美術の作品をより楽しんで観賞するための2つの魔法の言葉～

数年前から「月に1冊本を読む」という目標を掲げており、読書を充実させています。その中で、3年前に購入した『13歳からのアート思考』という本を久しぶりに読みました。

タイトルに『アート思考』と書いてあるので、美術や制作が苦手な人は少し抵抗があるかもしれませんが。私も正直、幼少期より美術は苦手でした。そのため「少しでも自分の中の苦手意識をなくしたい」と思い、職員に勧められたこの本を手にとったことがきっかけです。

この本の中には、なぜ美術が子どもにとって大切なのか、美術が楽しくなるためのワークや作品の見方、考え方などがたくさん書いてあるので、ぜひご覧ください♪

今回は、この本の中に書いてあった『美術の作品をより楽しんで観賞するための2つの魔法の言葉』をご紹介します。

### 美術の作品をより楽しんで観賞するための2つの魔法の言葉

『どこからそう思う?』・・・主観的に感じた『意見』の根拠となる『事実』を問う  
『そこからどう思う?』・・・作品内の『事実』から主観的に感じた『意見』を問う

自分の感覚器官を駆使して作品と向き合うことは、「自分なりの答え」を見つける第一歩です。しかし、そうはとってもなかなか難しいものです。そんな時こそ、魔法の言葉で視点を深めてみましょう。実際に右の絵を使って行ってみます。



Q.この絵についてどんな印象を持ちましたか?

A.クジラがいるみたいに見えます。

Q.どこからそう思う?

A.絵の下の方、赤い点が目で口を開けているように見えました。

Q.そこからどう思う?

A.子どものクジラかな?無邪気な感じでかわいいです。

Q.他には何かある?

A.左上に海に沈む夕日が見えました。

Q.どこからそう思う?

A.オレンジ色の波のような模様があるからです。

いかがでしょう?もう一步深まった鑑賞が出来ませんか?

私はこの手法で、美術館巡りを始めました(笑)

子どもの作品を見る時、また子どもの何気ないつぶやきが出た時、是非ぜひ深めてみてください。

新たな発見につながるかもしれません♪

(中野)